

TOPICS

発行 西予市復興支援課
電話 0894(62)1455

- ◆ のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編2①）を開催しました
- ◆ 災害伝承展示室(乙亥会館内)で、VRコンテンツが体験できます

のむら復興まちづくりデザインワークショップ(アクション編2)を開催しました！

■活用・維持管理を検討するワークショップ（アクション編2）がスタート

これまで、「河川沿いの魅力的な空間づくり」について3回にわたって検討を重ねてきました。このたび、検討結果をもとに「野村地区肱川周辺水辺まちづくり計画」(案)を策定し、肱川周辺の水辺空間における整備方針及び整備計画を定め、各種事業の実施により野村地区の復興まちづくりの実現を目指します。そこで、実現に向けて各種事業が動き始めるにあたり、事業完了の先にある「活用・維持管理」に着目しました。「アクション編2」では、それぞれの場所の維持管理の内容や方法、どこで誰が何をするのかということについて議論し、それらが実現できるように実施設計を進める予定です。

アクション編2をスタートするにあたり、右岸側に整備が予定される「菜園」の利活用方法について、野村高校3年生より提案をいただき、それに対するディスカッションを行いました。

【のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編2①）の開催概要】

- ◆日時：2020年10月21日(水)19:00～ ◆会場：野村公民館 3階 ホール
- ◆主催：西予市 ◆協力：愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体
- ◆参加者：39名（野村地区自治会、社会教育団体などの公的団体代表者、西予市内在住者など）
- ◆主な内容：○野村地区肱川周辺水辺まちづくり計画(案)について
 - これまでの振り返りと今回のワークショップについての主旨説明
 - 野村高校プロジェクトの提案
 - グループワーク 野村高校プロジェクトの提案を受けて
 - グループワークの発表とまとめ



▲ 野村高校生による提案



▲ グループワーク



▲ 各グループの意見の確認

■ワークショップの開催結果

これまで検討を重ねてきた「河川沿いの魅力的な空間づくり」における、最初の事例となる野村高校プロジェクト「菜園の利活用」について提案がありました。提案では、右岸側に整備予定の菜園を活用し、農業体験、食育、イベント等、誰もが出入り自由な活動の場を提供するというものです。中でも、その目玉として野村ならではの特産品の開発を目指し、桑の木を栽培して桑の実(マルベリー)を収穫し、スイーツの素材として活用することが挙げられました。全員参加型のまちづくりとして、地域の方々や大学等の関係機関とともに活動を展開していくことが提案されました。

グループワークでは、高校生からの提案に対して、どのような関わり方ができるのか、更なるアイデア、実現のための方策等についてディスカッションを行いました。参加者のそれぞれの立場や視点から積極的な意見が交わされ、具体的な行動の実現に向けて、大きな一歩を踏み出したワーキングとなりました。

■野村高校プロジェクトの提案に対する主な意見

グループワークでは、各グループの高校生から、菜園を活用して栽培する桑の実を加工したシロップやジャムをふんだんに使用したかき氷や、トマト等の素材を活用したピザを作っていくとの補足説明などもあり、より具体的な意見が数多く出されました。

「① これはいい！面白い！」

- ・野村らしく桑の葉、桑の実に着目した点
- ・ぞっこん水と桑の実シロップで作ったかき氷
- ・子どもの頃に食べた桑の実の活用に興味あり
- ・若い世代に人気のある「かき氷」を通して外部への情報を発信に期待できる
- ・(比較的)簡単に栽培できるトマトを活用したピザ
- ・ひまわりを栽培し、搾油して活用するところ

「③ さらにこんなことをやってみたら！」

- ・ジャム、ピザ以外に、桑の葉茶(紅茶)の開発、販売
- ・地域の団体を巻き込み、役割分担して地域全体で取り組む手法の検討
- ・小学生の遠足と体験授業を兼ねる
- ・乙亥の「亥」にちなんだイノシシ肉を使った商品
- ・桑の専門家から桑のイロハを教わる
- ・畜産科のミルクやお肉の活用
- ・新商品を開発する取組みの呼びかけ

「② 自分の関わり方は？どんな人にどんな関りをもってもらったらどうだろう？」

- ・SNSによる情報発信
- ・かかわりのある事業者、事業所へ紹介や、機関紙による紹介をお願いする
- ・専門家の紹介
- ・自分のお店で使う材料として、野菜を買い付ける
- ・軽トラ市や盆踊りへの出店の斡旋

「④ そのために誰が何をすればよいのだろう？」

- ・子どもと一緒に食育プログラムに参加したい
- ・地域の専門家の人脈を活かして技術的協力を受ける
- ・地元のネットワークを活用したノウハウの収集
- ・Youtubeの活用(野村高校チャンネル等)
- ・地域の身近なところから情報を発信し、口コミにより拡散する。

「⑤ そのためにどんなモノ、施設、しくみが必要になるだろう？」

- ・ゲストハウス等の宿泊施設や民泊の活用
- ・公園、まち中に「高校生カフェ」を
- ・かき氷は夏だけなので、冬の商品を検討
- ・修学旅行生の受け入れ
- ・管理棟内に加工場所が必要
- ・桑の実を十分に収穫するだけの農地の確保(耕作放棄地対策としても検討)
- ・「見せる菜園」併せてひまわり栽培するなど菜園を背景に写真を撮影したくなるシチュエーション

■今後に向けて

野村高校プロジェクトを地域のこと、自分自身のこととして真剣な意見を多くいただきました。今後、ワークショップでは、河川沿いで整備をすすめるそれぞれの場所において、利用者としての利用の検討を行い、維持管理のために具体的にどのような工程が必要か洗い出しを行っていく予定です。

災害伝承展示室(乙亥会館内)で、VRコンテンツを体験しよう！

10月12日に乙亥会館1階にオープンした「災害伝承展示室」。ここでは、VR(バーチャルリアリティ)の技術を用いて、河川の氾濫を再現した映像などを見ることができます。



視聴を希望する場合は、乙亥会館事務所にお声がけください。
事務所前の椅子に座って視聴をすることができます。

▲ VRとは・・・専用のゴーグルをかけると、あたかも自分がその映像の世界(仮想の世界)の中にいるような体験ができるものです。

【お問い合わせ先】 西予市 復興支援課 電話：0894(62)1455